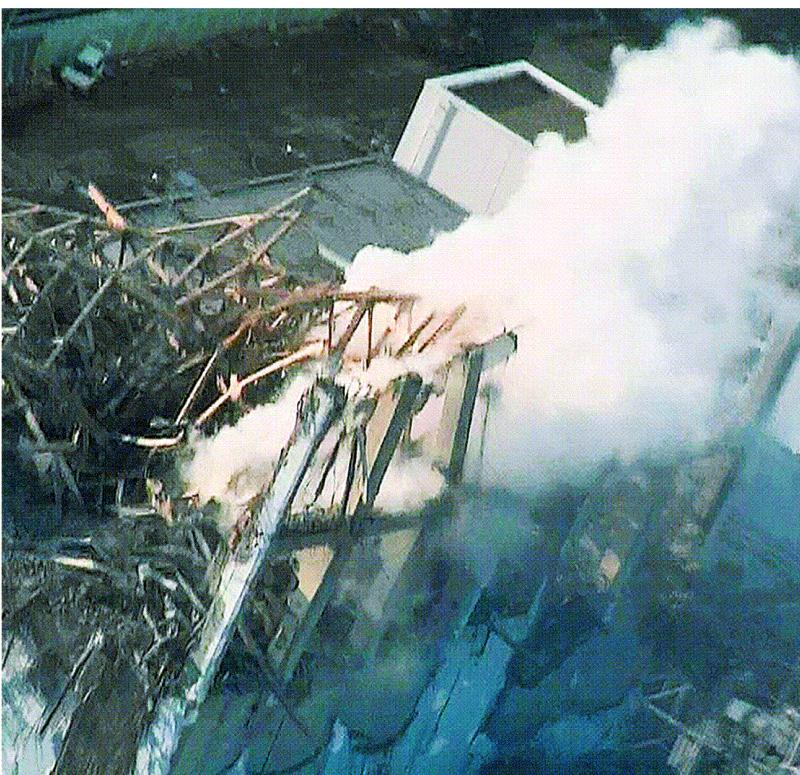
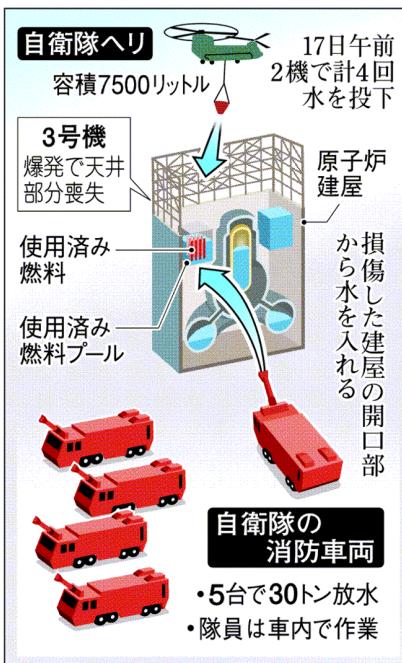


自衛隊 地上から放水



福島第1原発3号機の 冷却作業イメージ

東京電力が16日午後に撮影、17日公開した白煙を上げる福島県の福島第1原発3号機（同社提供）



量がいずれも毎時1名前
以下に落ちた。都道府県
に観測を委託している文
部科学省の集計では、14
日以降に高い値を示した

各地とも1ケドット以下 放射線量

各地の最大放射線量				
過去の 最大値	今回の観測値			
	14日午後5時~ 15日午後5時	15日午後5時~ 16日午後5時	16日午後5時~ 17日午後5時	17日午後5時~ 18日午後5時
北海道	0.105	0.039	0.029	0.035
青森	0.102	0.022	0.029	0.050
岩手	0.084	0.052	0.045	0.048
宮城	0.051	—	0.199	0.155
秋田	0.086	0.036	0.039	0.048
山形	0.082	0.040	0.114	0.056
福島	0.071	—	—	—
茨城	0.056	—	1.035	0.248
栃木	0.067	1.318	0.388	0.214
群馬	0.045	0.562	0.501	0.110
埼玉	0.060	1.222	1.039	0.068
千葉	0.044	0.313	0.253	0.041
東京	0.079	0.809	0.361	0.053
神奈川	0.069	0.182	0.153	0.056
新潟	0.153	0.050	0.068	0.048
長野	0.097	0.038	0.107	0.089
愛知	0.074	0.041	0.044	0.040
大阪	0.061	0.043	0.051	0.046
香川	0.077	0.053	0.059	0.055
福岡	0.079	0.043	0.036	0.037

県内の放射線測定値 (18日午前1時現在、県発表)

新潟市西区	0.048
長岡市	0.047
阿賀町	0.104
南魚沼市	0.194
新発田市	0.065
上越市	0.072
柏崎市	0.041
刈羽村	0.035

南魚沼市で18日午前1時
在、毎時0・194答
て通常値をやや上回る
範囲内に収まっている。

県内の放射線測定値は
通常値よりやや上回る

は健康上の問題はないとしている。県内の放射線測定器によるデータでは、南魚沼市以外はすべて通常値(毎時0・016〜0・16)^{合計程度}の数値を示しているが、県

玉、茨城の両県が15%以下。高止まりしていた群馬県も0・1畳間の水準日に比べて大きく低

する。東北電力の送電線 を原発に引き込む作業も 17日に実施、外部電源の 復旧を目指す。	警視庁の高圧放水車も 午後7時から放水した が、途中で作業を中断。 警視庁は「現場の放射線 量が高かつたため、危険 と判断した」と説明した。	東電は引き続き原発周辺 の放射線量のデータを 集め、冷却効果や今後の 対策を検討する。一方で 東電は「水蒸気が原子炉 建屋から上がった。冷却 効果があった」とへりに よる水投下の効果を強調 した。	東電は引き続き原発周辺 の放射線量のデータを 集め、冷却効果や今後の 対策を検討する。一方で 東電は「水蒸気が原子炉 建屋から上がった。冷却 効果があった」とへりに よる水投下の効果を強調 した。
東電によると、原発敷 地内では、放水車による 放水が実施され、放水車 の周辺では消防車両が展 開された。	北沢俊美防衛相が「き ょうが限度」と決断を迫 収した。	福島第1原発では地震 による対応で、4号機の使 用済み燃料ブールの冷却 機能が停止し、水素爆発 などで原子炉建屋が損 傷。ブールの水位が低下 して燃料が露出し、放射 性物質を含む蒸気が放出 された恐れがある。	福島第1原発では地震 による対応で、4号機の使 用済み燃料ブールの冷却 機能が停止し、水素爆発 などで原子炉建屋が損 傷。ブールの水位が低下 して燃料が露出し、放射 性物質を含む蒸気が放出 された恐れがある。
警視庁は18日以降は実施 しない方針で、現地を撤 収した。	北沢俊美防衛相が「き ょうが限度」と決断を迫 収した。	ただ今回の放水量は、 空と陸を合わせてもブ ールを満たすのに十分で はない、今後も継続的な はなく、今後も継続的な	ただ今回の放水量は、 空と陸を合わせてもブ ールを満たすのに十分で はない、今後も継続的な はなく、今後も継続的な
東電によると、原発敷 地内では、放水車による 放水が実施され、放水車 の周辺では消防車両が展 開された。	北沢俊美防衛相が「き ょうが限度」と決断を迫 収した。	福島第1原発では地震 による対応で、4号機の使 用済み燃料ブールの冷却 機能が停止し、水素爆発 などで原子炉建屋が損 傷。ブールの水位が低下 して燃料が露出し、放射 性物質を含む蒸気が放出 された恐れがある。	福島第1原発では地震 による対応で、4号機の使 用済み燃料ブールの冷却 機能が停止し、水素爆発 などで原子炉建屋が損 傷。ブールの水位が低下 して燃料が露出し、放射 性物質を含む蒸気が放出 された恐れがある。

放水が必要とみられる。東電は海水を取り入れるポンプなど主要機器の機能を確認し、原発全体の冷却機能の回復を目指す。

防衛省によると、作業に当たった自衛隊員が被ばくした放射線量は、一般人の年間被ばく線量限度の1ミリシーベルトを下回った。

自衛隊の放水は当初、海水を直接放水する計画だったが、ホース接続などの際で、係員が皮膚

福島原発3号機

放射線量変化なし

東電は強調も続々きょうも

放水が必要とみられる。東電は海水を取り入れるポンプなど主要機器の機

に下がった。
福島第1原発ではこの
間、陸上自衛隊のヘリコ
ー
・0.35倍から0・2
48倍へと70%以上減
った。